

独立行政法人 日本学生支援機構
全国キャリア教育・就職ガイダンス 事例紹介



産学連携による 山形大学の キャリア・就職支援

山形大学 小白川キャンパス
キャリアサポートセンター
准教授 山本美奈子・松坂暢浩

この度は、事例紹介の機会をいただき誠にありがとうございます。本学の産学連携によるキャリア・就職支援について紹介させていただきます。

山形大学の概要

2



学長 玉手 英利 (たまたて ひでとし)

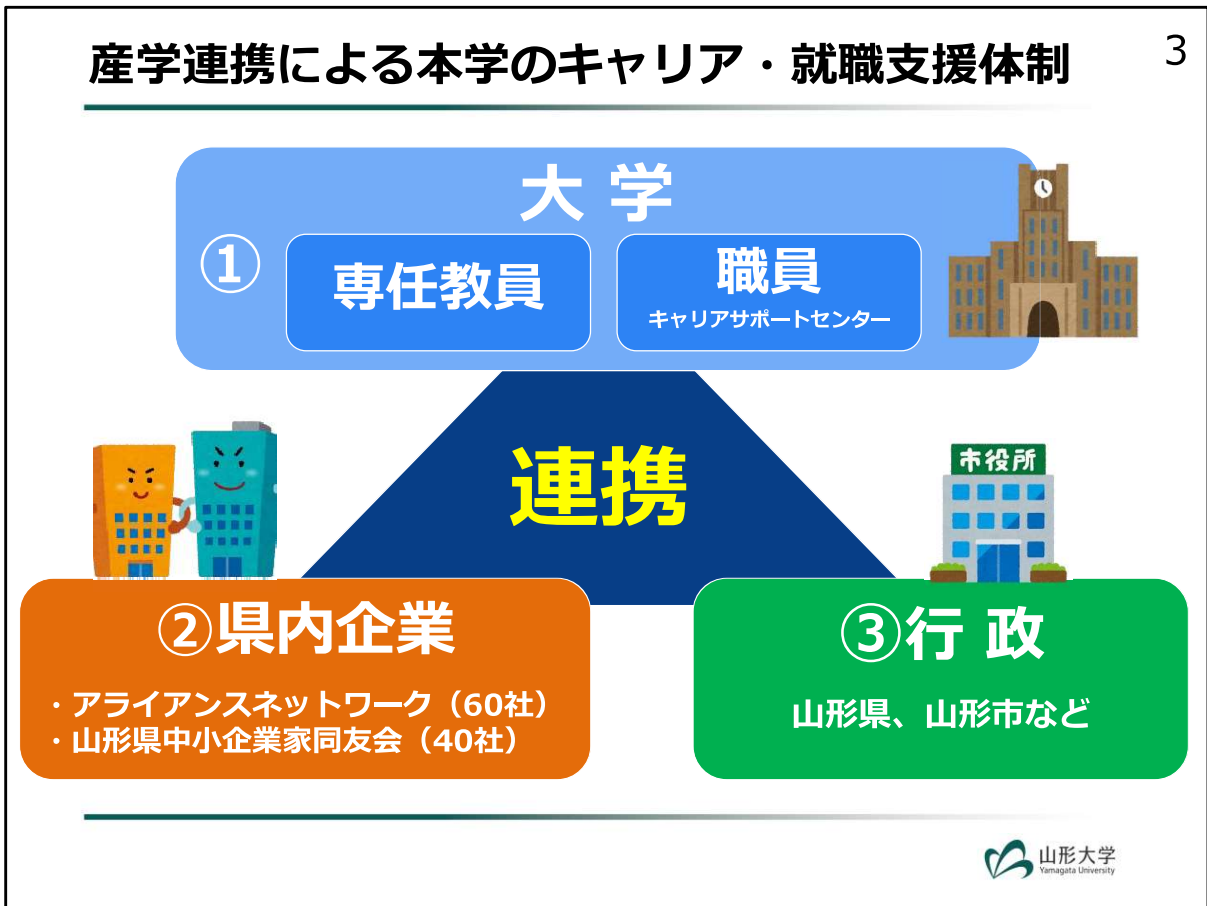
人文社会科学部・地域教育文化学
部・理学部・医学部・工学部・
農学部の6学部と7つの大学院研究
科を備え、約9,000人の学生が
4キャンパスで勉学に励む、
東日本でも有数の規模を誇る
総合国立大学



まず始めに山形大学について簡単に紹介します。本学は、人文社会科学部・地域教育文化学部・理学部・医学部・工学部・農学部の6学部と7つの大学院研究科を備え、約9,000人の学生が4キャンパス（小白川、飯田、米沢、鶴岡）で勉学に励む、東日本でも有数の規模を誇る総合国立大学です。

本学は、地域創生、次世代形成、多文化共生の3つの使命に基づき、5つの基本理念①学生教育を中心とする大学創り、②豊かな人間性と高い専門性の育成、③「知」の創造、④地域創生及び国際社会との連携、⑤不断の自己改革に沿って、教育、研究及び地域貢献に全力で取り組み、国際化に対応しながら地域変革のエンジンとして、キラリと光る存在感のある大学を目指しています。

（補足）小白川キャンパスは、人文社会科学部・地域教育文化学部・理学部に所属する学生が学んでいます。飯田キャンパスは、医学部に所属する学生が学んでいます。米沢キャンパスは工学部に所属する学生が学んでいます。鶴岡キャンパスは、農学部に所属する学生が学んでいます。



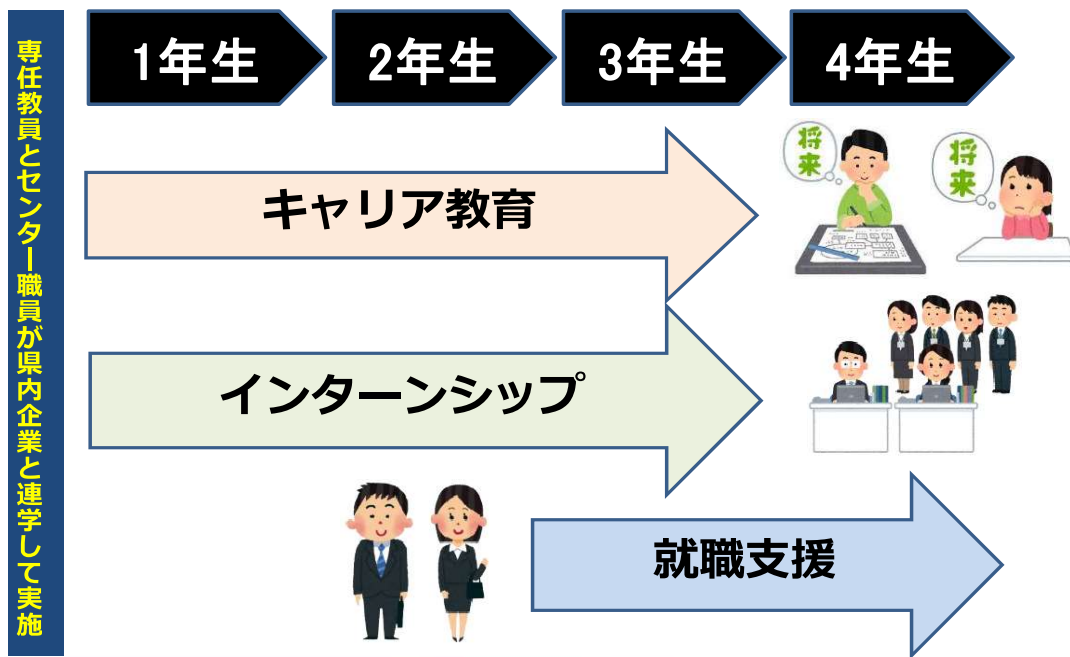
次に本学のキャリア・就職支援の体制について紹介します。組織的な位置づけとしては、上記スライドにある①大学（専任教員と職員）、②県内企業、③行政と連携して取り組む体制になっています。特に専任教員2名が中心となって、県内企業との連携を強化しています。具体的には「大学と企業が一丸となって時代にマッチした社会人を育てる」を目的に提携するアライアンスネットワークの構築や県内の中小企業が加盟する山形県中小企業家同友会との連携を密にし、産学連携を推進しています。また、行政とも連携し、専任教員が若者の県内定着促進のための会議や協議会のメンバーとして参加するなど産学官の連携強化を図っています。

(参考)

・山形大学 アライアンスネットワークについて <https://www.yamagata-u.ac.jp/jp/employment/student/alliance/>

入学から卒業まで一貫したキャリア・就職支援

4



本学では、早期から産学連携によるキャリア教育とインターンシップを実施し、3年生から就職支援に取り組んでいます。これらの取り組みは、キャリア・就職支援を担当する専任教員2名とキャリアサポートセンターの職員6名が、県内企業と連携して実施しています。

本学の就職状況（2020年3月卒）

5

学部生		就職者数:1,070人												就職率(希望者における):99.6%
2020年3月卒業 (医学科除く)		就職地域												
		山形	宮城	福島	新潟	北東北 北海道	関東	北陸 甲信越	東海	近畿	中国 四国	九州 沖縄	海外	合計
出身地域	山形	191	35	5	0	0	62	1	0	1	0	0	0	295
	宮城	23	132	1	2	1	69	2	3	0	0	1	0	234
	福島	8	12	35	1	2	30	0	0	0	0	0	0	88
	新潟	4	3	0	17	0	15	0	1	1	0	0	0	41
	北東北・北海道	9	37	1	0	62	51	1	6	2	0	0	0	169
	関東	6	8	0	0	1	109	0	4	4	0	0	0	132
	北陸・甲信越	0	0	0	1	0	10	23	0	1	0	0	0	35
	東海	2	2	0	0	0	22	1	28	2	1	1	0	59
	近畿	1	1	0	0	0	4	0	0	2	0	0	0	8
	中国・四国	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4	1	0	6
	九州・沖縄	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
	海外	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	合計	245	231	42	21	67	373	28	42	13	5	3	0	1,070

出所) 山形大学「求人のための大学案内2022」 地域別就職状況



こちらは、本学の2020年3月卒の学部生の「地域別就職状況」になります（医学科を除く）。就職率（就職希望者における就職者の割合）は99.6%でした。このデータで注目しているのが、山形県内に就職した割合です。2020年3月卒は、26.9%でした。現在集計中の2021年3月卒では、32.1%になる見通しです。報道等でも指摘されていますが、コロナ禍で地方圏での就職を希望する学生が増えているといわれていますが、本学でも山形県内の就職者が増加しており、地域就職が今後増える可能性があると考えています。

そのため、今後はさらに地域の企業等との産学連携を強化し、県内就職の促進に向けた取り組みが必要だと考えています。

2021年卒の大学の就職支援に対する評価

大学の就職支援満足度は、大変満足、満足をあわせると**56.4%**（昨年より**11.5%**低下）

就職支援満足度	回答数	割合
大変満足している	12	8.5%
満足している	68	47.9%
どちらともいえない	46	32.4%
あまり満足していない	13	9.2%
まったく満足していない	3	2.1%
合計	142	100.0%

出所 「山形大学 2020年度 就職活動実体調査（2021年度卒業予定の内定者調査）」



本学では、2月に内定者を対象に、就職活動の状況および大学の支援に対する評価についてアンケート調査を実施しています。こちらの結果は、大学のホームページの就職支援・キャリア支援＞各種情報＞アンケート調査に掲載しています。2021年卒の内定者の就職支援への満足度が56.8%と昨年比-11.5%という結果でした。特に「どちらいえない」と回答した学生が昨年よりも多く、コロナ禍で対面での支援が減少し、大学の支援が届いていない可能性があります。

そこで、先程説明した県内就職の増加傾向や内定者調査の結果を踏まえ、現在どのような就職支援に取り組んでいるかについて説明をしたいと思います。

- 1) コロナ禍における学生の不安**
- 2) 産学連携による就職支援**
- 3) 産学連携によるキャリア教育**

本日は、大きく3つのテーマでお話をいたします。

1) コロナ禍における学生の不安



まず1つ目のコロナ禍における学生の不安について説明します。

2021年卒の学生の就職意識 (株式会社マイナビの調査)

企業選択のポイント

「安定している」4.5pt増加し42.8%



就職観として

「人のためになる仕事をしたい」前年より増加

行きたくない会社

「ノルマがきつそうな会社」

「転勤が多い会社」



出所) 株式会社マイナビ「2021年卒マイナビ大学生就職意識調査」(実施期間 2020年12月1日~2021年3月20日、有効回答数41,731件 https://www.mynavi.jp/news/2020/04/post_23097.)



コロナの影響で学生の就職意識はどのように変化したのでしょうか。マイナビが実施した学生の就職意識に関する調査の結果を見ていきたいと思います。2021年3月卒の学生（今年の3月に卒業した学生）に対するアンケート調査の結果からポイントになる点を3つ紹介します。1つ目は、企業選択のポイントとして「安定している」が前年から4.5pt増加して42.8%でした。コロナの影響で依然として不透明な経済情勢を反映し、少しでも安定した企業を選択をしたいという思いがうかがえます。2つ目は、就職観として、前年からの増加幅が大きいのは「人のためになる仕事をしたい」でした。これまでも経済状況の悪化や大きな災害等が起こった際には同じような傾向がみられます。3つ目は、行きたいくない会社は「ノルマがきつそうな会社」や「転勤の多い会社」でした。特に、コロナ禍の影響でリモートワーク等、働く場所を自分で選択するような価値観が社会に広がりつつあり、学生の志向にも影響していると考えられます。また、「転勤」を嫌う傾向は、地元志向の学生によくみられる傾向であることが、これまでの研究でも明らかになっています。



友人など他の学生の活動状況が分からないので不安

6月以降に公務員から民間企業に切り替えたが募集があるか不安

全てオンライン選考のため、本当に自分にマッチしているかどうか不安

地元の中小企業の情報をどのように見つければ良いか分からない



出所) 山形大学 (2021) 「4年生・修士2年生対象 (2022卒) 現在の就職活動状況と就職支援への要望に関するアンケート調査結果」から一部抜粋



先程のマイナビのデータは、2021年に卒業した学生のアンケート調査の結果でした。次に、2022年卒の就職活動を進めている大学4年生や大学院2年生は、コロナ禍でどのような不安を持っているのか本学の学生を対象に実施したアンケート調査の結果を紹介します。調査した結果、「他の就活生の動きが見えないので不安」「公務員から民間企業に切り替えた場合の不安」「オンライン選考の不安」「中小企業が見つけれられない」といった不安があげられていました。このように、就職活動の変化や学生の就職意識の変化を見ていくと、コロナの影響で課題となった点（オンラインによる就職活動など）と以前からあった課題（地域の中小企業に関する情報収集など）がより鮮明になった点があると考えられます。

2) 産学連携による就職支援



次に2つ目の産学連携による就職支援について説明します。

本学の就職支援事業について

時期	導入 4月～10月	展開 11月～12月	応用 1月～3月
概要	自己理解 就職活動前の心構えなど全般的な基礎知識を身につける。 また自己理解を深める為の方法を身につけ実践する。	社会理解 本格的な就職活動前に具体的な情報収集・活用 方法を身につけ実践する。	自己表現 本格的な活動前に具体的な活動方法の確認と効果的な 自己表現方法を身につけ実践する。
具 体 的 な 支 援 内 容	大規模ガイダンス事業<全体で学ぶ>		
	進路・就職ガイダンス 民間・公務員・教員(4月,5月)	就活ガイダンス② 業界・企業・仕事研究	就活ガイダンス③ エントリーシート・面接対策
	就活キックオフガイダンス(9月,10月)		合同企業説明会直前セミナー
	就活ガイダンス① 自己分析		
	地域就職応援セミナー		
	中・小規模セミナー事業<実践的に学ぶ>		
	自己分析、企業・仕事研究、エントリーシート対策、面接対策セミナー		
	実践型就職対策講座		
	公務員模試・人物対策講座		教員対策模試
	その他の支援事業<企業等との接点を通じた学び>		
	インターンシップ	OB・OGとの懇談会(キャリアカフェ)	
		業界研究講座(10月～) (民間企業・公務員・教員)	個別説明会(3月～) (民間企業・公務員・教員)
	学内合同企業説明会(3月、8月、9月)		
個別支援事業(キャリアカウンセリング(就職相談))			
専任教員および就職相談員による個別相談および指導(進路選択に関する相談、エントリーシート、面接対策など)			

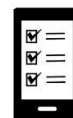


本学の就職支援事業について説明します。実施にあたっては、各キャンパスの支援状況を全学で集約・情報共有を行い、支援内容に応じて可能な範囲でキャンパス間で協力して進めています。

学生ニーズを踏まえた支援

→定期的に学生アンケートを行い、その結果を踏まえた支援を実施

アンケート



① オンラインによる支援

→オンラインによるキャリア・就職支援（就職相談や就職ガイダンス等）の充実。



② 地域就職に関する支援

→地域企業の魅力を発信する独自の工夫
→専任教員による地域企業との個別マッチング



本学では、学生に対してWebアンケート調査を定期的実施し、その結果を踏まえ支援を行っています。

これまでの調査の結果、オンラインによる支援をさらに強化してほしいとの要望がありました。また就職先として山形県を志望する学生が増えたことで、地域の中小企業の情報を知りたいという要望がありました。そこで、昨年度から要望が多かった上記2点の支援について力を入れて取り組んでいます。

また、本学キャリアサポートセンターで意識していることは、「スピード感」を持って取り組むことです。今回のコロナのように、想定をしていない状況が起こっても、センター内で話し合い、アンケート調査を基に仮説を立て、トライ&エラーを繰り返しながら、早め早めに動くことを意識しています。

オンラインによる就職支援の取り組み①

①ウェブ会議システム（Zoom等）を活用した「Web相談」および「Web面接対策」



1. WEB面接の準備

1. ビデオ会議ができる機材の準備
パソコンまたはタブレット（iPad等）が必須。スマートフォンの場合は、アプリをインストールし、事前に設定を完了させる。また、ヘッドセットやマイク、カメラの接続も確認する。

2. カメラ・マイクの準備
使用する機器を確認して、電源がオンになっていることを確認する。また、マイクが正常に動作していることを確認する。

3. インターネット環境の確認
安定した通信速度が確保できていることを確認する。

1. 機材の設置
照明が自然なように、コンテキストを調整して使用する。また、Zoomの閉鎖メールが送られてきている場合は、受信メールの通知音には応答しない。また、ズームの音声設定も確認する。

2. トラブルに備える
通信が切れたり、音が聞こえない場合は、電話線が使えるようにしておく。また、Zoomの音声設定も確認する。Zoomの音声設定も確認する。

当日準備
Zoomの音声設定も確認する。Zoomの音声設定も確認する。

②学生アンケート調査を実施し、共通して挙げられている不安や困りごとのQ&A作成

Q&Aの概要

1. 就活スケジュールが決まらなくて不安です。どうしたらいいですか？

2. Web面接に必要な機材の設定方法や面接対策が不安です。対策について教えて貰えませんか？

3. 就活が遅れているのでは？と不安になります。他の学生の状況は、どうなっていますか？

4. 公務員との併願を考えていますが、これからのように進めていけば良いのでしょうか？

1-4 就職活動で困っていることや不安な点 (n=170)

内 訳	回答者数	割合
今後の就職活動の進め方がわからない	32	18.8%
予定が取り消されるのではないかと不安	24	14.1%
WEB面接が不安	19	11.2%
ネット中心の活動で、業界研究が深まらない	18	10.6%
就活スケジュールが変更になり、企業と連絡がとれない	12	7.1%
WEB面接に変更となり、機材が上手く使用できるか不安	9	5.3%
地域の企業の求人が見つけれない	7	4.1%
ネット環境が十分ではないので不安	5	3.5%
その他	33	19.4%
無回答	10	5.9%
合計	170	100.0%

③ガイダンスやOBOGによる仕事紹介のメッセージ動画を配信



「Netでキャリアカフェ」及び「NetでOB・OG訪問」を実施します!!

①キャリアカフェとOB・OG訪問、必ず山形大学に実施します!!

【Netでキャリアカフェ】と【NetでOB・OG訪問】の開催について（予定）

①Netでキャリアカフェ（予定）

②NetでOB・OG訪問（予定）



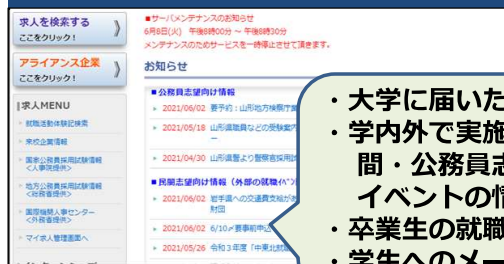
まずオンラインによる就職支援について説明します。①Zoomを活用した「Web相談」および「Web面接対策」に力を入れています。自宅でWeb面接が受験できない学生のためにネット環境が安定している相談室を準備し、必要な機材や操作方法のサポートを行っています。また、学生向けに本学独自のWeb面接対策資料（マニュアル）を作成し、学生に案内しています。②学生に対して実施したアンケート調査の結果を基に学生の不安や困りごとを「Q&A」方式でまとめて公開しています。③コロナの影響で、対面式のガイダンスやセミナーが実施できないため、各種のガイダンスやセミナーを動画にして配信しています。また、県内企業で働く本学OB・OG（入社5年目までの若手社員）から仕事紹介の動画を作成してもらい配信しています。

これらの取り組みは、本学のホームページの「就職・キャリア支援」に掲載し、学生や企業、保護者の皆さんへ発信をしています。

④ 本学独自の就職活動マニュアルを作成



⑤ 求人検索NAVI(就職支援システム) 活用



- ・大学に届いた求人票
- ・学内外で実施される民間・公務員志望者向けイベントの情報
- ・卒業生の就職活動体験記
- ・学生へのメール配信

⑥ 地元就職のための情報源

情報発信先	内容
山形県	<ul style="list-style-type: none"> ・山形県就職情報サイト (山形県が運営する就職情報サイト) ・Y+M ものづくりヤマガタ情報サイト (製造業に特化した企業情報) ・Web労働やまがた (「やまがた子育て・介護応援いきいき企業」が紹介されている) ・キラリと光る! 山形県村山地域の企業 (山形大生が、学生視点で山形県村山地域の企業の魅力を取材した記事)
山形県中小企業家同友会	<ul style="list-style-type: none"> ・Job way山形 (県内中小企業の求人情報)
やまがた新卒応援ハローワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・山形県内の企業の求人情報を入手できる。 ・就職相談や模擬面接なども行っている。 ※利用にあたっては事前登録が必要
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・大学や地元の友人、家族や親戚からの情報も有用



④学生からの要望を受け、キャリアサポートセンターの教職員で、独自の就職活動マニュアルを作成しています。これらのマニュアル作成は、一般的なマニュアルと差別化するために、先輩の事例やこれまでの就職支援の事例などを入れて具体的な内容にしています。また、⑤学生に対する求人票やメール案内は、求人検索NAVI(株式会社ジェイネット)を利用し、コマメに発信するように心がけています。さらに、⑥地元就職を考えている学生向けの就職情報を大学の「就職支援・キャリア支援」のホームページからみれるようにしています。これは、学生のアンケート調査で、地元就職を考えているがリクナビなどの就職情報サイト以外の求人票や地元企業の探し方がわからないという学生の声を反映したものです。山形県の事例を基にしていますが、他府県出身の学生が地元就職を考えた際に情報の探し方の手がかりがわかるようにアナウンスしています。

PRについて

- ・できるだけ写真などを掲載ください。
- ・キャッチフレーズなど、学生が一目で貴社のPRを理解できるように工夫してください。
- ・○○学科の学生はぜひ！○○を生かして働けます！○○を希望する方にオススメ！など学生がエントリーしやすくなるようなメッセージがあると効果的です。
- ・文字が小さくなりすぎないように、できるだけ内容を絞って作成してください。

■本社所在地、■山大OB・OG数、■募集職種、■勤務地、■平均勤続年数、■離職率(過去3年)、■月平均所定外労働時間の記載をお願いします。

【キャリアセンターからのお薦めポイント】

- ・ 大学として貴社を勧める上でポイントになる点を簡潔に教えてください。

【若手職員に聞きました！】

● この会社を選んだ理由（志望動機）

学生が志望動機を作成する際に参考になるよう、決め手になった「ポイント」等を入れていただくようお願いいたします。

● 入社して実感した会社の魅力

- ・働いているからこそ感じられる仕事の魅力について、具体的な仕事のシーンと併せて記載ください。
- ・入社後のミスマッチを防ぐ上でも、実際に働いて感じた入社前のイメージとのギャップを盛り込んでいただくのも効果的です。

本学では、学内の合同企業説明会を毎年3月と8、9月（公務員から民間企業への切り替えやリスタートの学生を対象）に行っています。その際に学生が地域企業の魅力を知ることができるように、上記のようなPRシートを企業と一緒に作成しています。このPRシートは、学生が求人検索NAVIからいつでも閲覧することができます。このように大学が企業と連携することによって、企業の魅力を発信する機会につながっています。



まっすぐに、建物を包むチカラ。



断熱樹脂入り金属外壁・屋根材メーカー

金属製外壁材「金属サイディング」市場のリーディングカンパニーである当社は、研究開発から製造、販売までの一貫体制が強みです。建築・建材の業界に直結しない学部・学科からも多くの方が入社し、多様な専門性をもって活躍しています。

詳細はマイナビから！



- 本社所在地：山形県東根市
- 山大OB・OG数：47人
- 募集職種：総合職（研究開発・製造・営業・総務）
- 勤務地：山形県（本社、2工場）、茨城県（工場）、全国10営業所
- 平均勤続年数：17.3年
- 離職率（過去3年）：9%
- 月平均所定外労働時間：15.6時間（2019年度実績）

担当者名：総務部 人事チーム 保科・加藤・齋藤
TEL：0237-43-1830
メールアドレス：jinji@igkogyo.co.jp

【キャリアセンターからのお勧めポイント】

- ★暮らしに欠かせない「建物」の顔をつくる会社です。
- ★山大小白川キャンパスの体育館にも使われています。
- ★研究開発・製造・販売の一貫体制が強みです。

【若手社員に聞きました！】

●この会社を選んだ理由（志望動機）

「地球上で人が生活する限り、外壁・屋根の需要は必ずある。それを製造しているメーカーは強い、だからこの会社はなくなるはない。」私がこの会社に入社を決めたのは、採用担当から聞いたこの言葉が決め手となりました。



山形大学 地域教育文化学科
スポーツ文化コース 卒業
営業部 竹中社員（2016年卒）

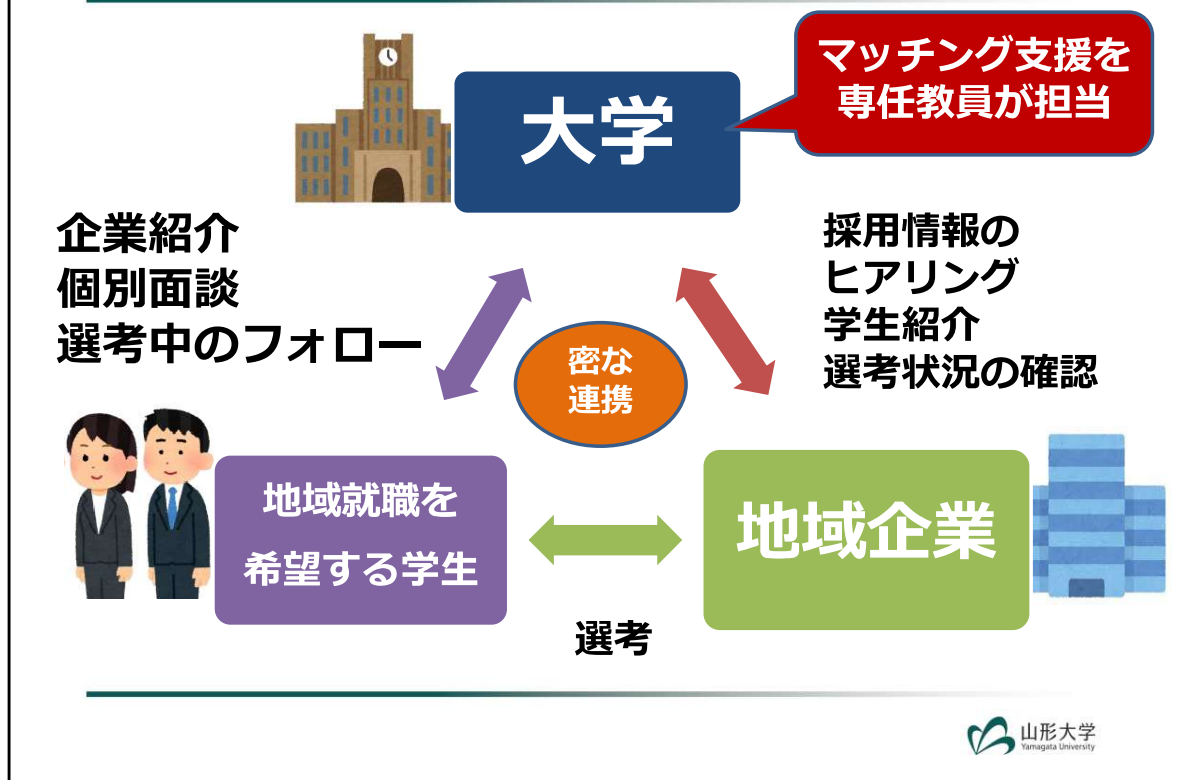
●入社して実感した会社の魅力

営業所が全国に10ヶ所ありますが、各エリアの主要拠点にありますので、休日なども退屈することがありません。また4部署（研究開発、製造、営業、総務）の風通しが良く、より良い会社作りをしていこう、と社員が一丸となって目指している姿が目に見えるのも魅力の一つでした。

ここで1社、県内企業の事例としてアイジー工業様の企業PRシートを紹介いたします。アイジー工業様は、山形県東根市にある建築材料メーカーです。主に建築用断熱外壁材（金属サイディング・金属サンドイッチパネル）及び金属屋根材の研究開発、製造、販売しています。金属サイディング業界において市場の4割を占めるリーディングカンパニーですが、知らない学生が多い状況でした。そこで、本学と連携し、企業PRシートを使った学生へのプロモーションやキャリア教育で連携した結果、定期的に本学学生が就職するようになりました。

また、コロナ禍において採用活動で色々工夫しておられ、多くのマスコミにも取り上げられています。そのなかで、リクルートが発行する「就職白書2021」にも取り上げられています。「就職白書2021」の企業事例（社名・写真付きのもの）は、小林製薬株式会社、株式会社日立製作所、ライフネット生命保険株式会社、カゴメ株式会社といった大手企業が多く掲載されています。そのなかで県内企業であるアイジー工業様が選ばれたことは、非常にうれしく、誇りに感じています。今年の「就職白書」は、企業事例も含め、今後の採用やインターンシップに取り組む上で、大変参考になる内容となっております。ぜひ一度ご覧いただければと思います。

地域企業と学生のマッチング支援

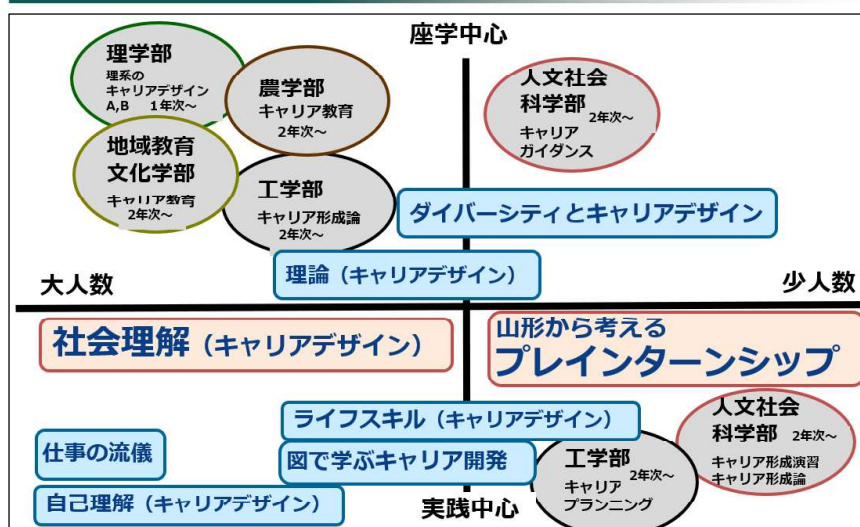


学生は、大手企業や有名企業に目が向きがちです。しかし、先程紹介したアイジー工業様のように、地域企業のなかには名前が知られていない隠れた優良企業があります。そこで専任教員によるマッチング支援を強化しています。具体的には、就職エージェントのように、地域就職を希望する学生に、専任教員が主に県内の中小企業を紹介し、採用担当者と連絡を取りながら、内定までのサポートを行っています。このような支援によって毎年10名以上が県内企業に就職をしています。マッチング支援を行うことによって、「県内の中小企業が探せない」、「やりたい仕事が見つからない」等の理由で、就職活動がうまく進められていない学生に対しても、個々の適性を鑑みつつ、その学生がより良い社会人として成長できる企業様へとつながることができています。大変時間がかかる支援ですが、誰ひとり就職を希望する学生を取り残さないためにも必要な支援だと考えています。またこの支援は、企業からの評価も高く、就職情報サイトなどでの募集では出会うことのできない学生を紹介してもらえる点や大学が学生をフォローしてくれる点で好評です。

3) 産学連携によるキャリア教育

最後に3つ目の産学連携によるキャリア教育について説明します。

山形大学の主なキャリア教育



山形大学の主なキャリア教育は、上記スライドのような内容です。1年次（青色、オレンジ色の四角）と2年次以降（グレー、楕円形）もキャリア教育が段階的に学べるようになってきています。報告者が担当する1年生のキャリア教育は、必修ではないですが、全学部の約7割が履修する授業になります。今回は、産学連携で取組んでいるキャリア教育（オレンジ色の四角）の2つを紹介します。

テーマ：社会を知る時間：「社会理解」

<テーマ①>

地域経済など地域企業を
取り巻く環境について

内
容

1. 山形県中小企業家同友会
2. 財務省東北財務局山形財務事務所
3. 山形地方裁判所
4. 新庄市・最上地区の中小企業
5. 東北税理士会山形県支部連合会
6. 仙台市・宮城県中小企業家同友会

地域の官公庁や経済団体による
講演を聞き学習する

<テーマ②>

企業研究



社会理解を深めるために県内企業
の「企業研究」に取り組み、成果
をまとめる

学
習
方
法

オンライン（オンデマンド形式）による自己学習
（動画視聴、授業資料と教科書の閲覧、チャット機能の活用、課題提出等）

1つ目は、大学1年生を対象としたキャリア教育「社会理解」の授業です。本授業は、大きく2つのテーマに分け、前半と後半でそれぞれのテーマに沿った授業を行います。まずテーマ①は「地域経済など地域企業を取り巻く環境について」です。テーマ①では、学生が地域経済や社会理解を深めるために地域の官公庁や経済団体による講演を聞き学習します。テーマ②では①を踏まえて「企業研究」に取り組みます。学生が地域の企業に関心が向くように本学が連携している県内企業（60社）のうちの1社を学生が選び、「企業研究」に取り組みます。学生は、他の大学生が「入社したい」と思って貰えるように企業研究に取り組み、成果報告をします。また、学生がまとめた企業研究は、各企業様にフィードバックし、情報発信する際の参考にして頂いています。

※2019年度の履修者597名（対面式）

※2020年度の履修者735名（e-ラーニング式）

授業満足度

94.0%

（「大変満足」と「満足」の合計）

企業理解度

94.8%

（「大変深まった」と「深まった」合計）

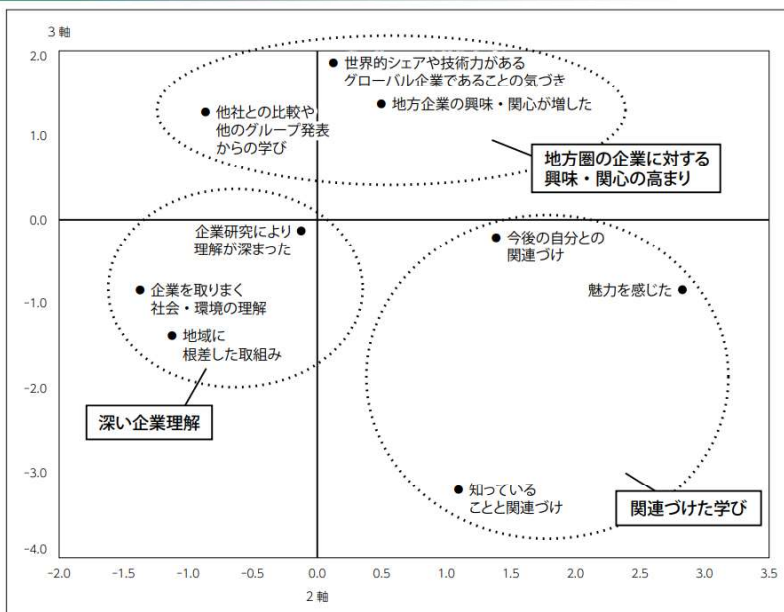


図 13 地方企業の理解度の理由の分類
(数量化Ⅲ類によるカテゴリースコアの布置)

N=316

出所) 山本美奈子・松坂暢浩 (2020) 「大学生のキャリア教育の授業設計と運営—産学連携プログラムに着眼して—」『キャリアデザイン研究』16, pp61-74



本授業の効果検証については、学会誌に原著論文として掲載されています。論文内容は、本授業を通して学生にどのような教育的効果があったか（どのように企業理解が深まったか）を分析したものです。

分析の結果、心理面において授業前に比べて授業終了後では、自尊感情、キャリア意識の指標である CAVT のビジョンが上昇し、不安と抑うつが低下していました。また授業に対する満足度は94.0%（「大変満足」と「満足」の合計）、地域の企業理解度は94.8%（「大変深まった」と「深まった」の合計）と高い結果でした。次に企業理解について学生の自由記述を質的に分析した結果が、上記の図になります。図を見ると『地方圏の企業に対する興味・関心の高まり』、『深い企業理解』、『関連づけた学び』の3つの観点から企業理解を深めていたことが分かりました。自由記述には、「地方には魅力的な企業がないと思っていたが、調べることを通し、世界的シェアや技術力のあるグローバル企業である」ことへの理解が深まりました。また、企業を取りまく社会・環境の理解や地域に根差した取り組みを知ることによって、深く企業について理解ができていたことが分かりました。

キャリア教育（山形から考えるプレインターンシップ） 23

大学



【課題】 県内の中小企業を含め
進路選択の幅を広げてほしい

中小企業団体



【課題】 県内の中小企業で働く
魅力を知ってほしい



**早期から地域の中小企業を
知る機会を提供**

→山形大学と山形県中小企業家同友会が連携し、
1年生向けインターンシップを2014年度から開講

出所) 松坂暢浩・山本美奈子(2019)「中小企業インターンシップの教育的効果の検討—低学年次を対象としたプログラムに着目して—」,
『キャリアデザイン研究(日本キャリアデザイン学会)』, 15, pp17-29



2つ目は、山形県中小企業家同友会と連携し、大学1年生を対象とした中小企業インターンシップの授業です。これまで大学側と地域の中小企業団体でそれぞれ課題がありました。大学側は、学生に県内の中小企業を含め進路選択の幅を広げてほしいという課題です。一方で中小企業団体側は、学生に県内の中小企業で働く魅力を知ってほしいという課題です。そこで、これらの課題解決に向けて早期から地域の中小企業を知ってもらう機会を提供しようと考え、本学と山形県中小企業家同友会と連携し、1年生向けインターンシップの授業を、2014年度（平成26年度）から開講をいたしました。

※2019年度の履修者60名が37社の中小企業でインターンシップを行いました。
※2020年度の履修者80名（e-ラーニング）でした。新型コロナウイルス感染症予防のため、インターンシップに行くための事前学習のみの授業となりました。履修者のなかで希望者に対しては、オンラインインターンシップ（授業外で単位なし）を提供しました。

キャリア教育（山形から考えるプレインターンシップ） 24

文部科学省主催「大学等におけるインターンシップ表彰」 文部科学大臣表彰「最優秀賞」（全国1位）受賞

<取組概要>

- ✓ 早期からの就業体験を通して、キャリア意識を高め、働くとは何かを考えることを目的に実施。
- ✓ 地域の中小企業の理解及び次年度以降のインターンシップ参加促進を目指し、山形県内の中小企業でインターンシップ（事前訪問1日・現場実習3日・振り返り1日）を行う。

評価のポイント

- 地域でのインターンシップの推進に向け、学生・企業が参加・受入れしやすくすることを旨とし、積極的な意味での短期間のプログラムとするなど、**インターンシップ実施に係る負担感を軽減し、普及していくための工夫がなされている**。さらに、**県内中小企業における産学協働教育に対する意識改革にもつながっている点は高く評価できる**。加えて、受講者数の一層の増加や、次年度以降のインターンシップの本格実施に向けた展望をより明確にすることが期待される。
- ターゲットを地場中小企業に絞り、「**インターンシップ・プログラム**」の**基本フォーマットを山形県中小企業家同友会と協働して作成**するなど、効果的な取組となるよう工夫を行っている。
- **受講者の追跡調査を実施し**、キャリア意識や学修意欲、将来の職業選択等のプロセスと決定に関わる要因の把握にも努めているとともに、教職協働による学生向けの「**インターンシップマニュアル**」の策定や、学習管理システムの活用により、**効果的・効率的なインターンシップの運用**がなされている。

（基本データ ※平成29年度実績）

- ✓ インターンシップ参加者数/ **43人**
- ✓ 受入企業等数/ **25社**
（山形県中小企業家同友会加盟企業）
- ✓ 実施年次/ **1年次【選択必修】**

※昨年度から他大学（私大2校）が、本取組に参画している

大学
山形大学

連携

中小企業団体
山形県中小企業家同友会

事前・事後指導 → 1年次 → インターンシップ受入

【効果的・効率的な運用のための工夫】

对学生： **インターンシップマニュアルの策定**
学習管理システムの活用

对企业： **プログラムの基本フォーマットの作成**

【教育的効果を把握する取組】

① **インターンシップ参加前後アンケート調査**
→ 社会人基礎力およびキャリア意識が向上、98%の学生満足度

② **履修学生の追跡調査**
→ 学習意欲の向上64%、進路選択活動の意識向上82%



出所) 文部科学省 (2018) 「受賞大学等取組概要」より一部抜粋し、報告者らが加筆修正
URL : http://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_ics_files/afieldfile/2018/12/19/1411892_02_1.pdf
(2019年1月20日現在)



本インターンシップは、学生の能力伸長に寄与するなどの高い教育的効果を発揮し、他の大学等や企業に普及するのに相応しいモデルとなり得るとして、第1回「大学等におけるインターンシップ表彰」で文部科学大臣表彰の「最優秀賞」（全国1位）を受賞しました（文部科学省主催）。

- 1) コロナ禍における学生の不安
- 2) 産学連携による就職支援
- 3) 産学連携によるキャリア教育

本日は、産学連携による本学のキャリア・就職支援について、大きく3つのテーマに沿ってお話させて頂きました。以上で山形大学の事例報告を終わります。ご清聴ありがとうございました。